

福海寺 (神戸市)

福海寺は、康永3年(1344年)に足利尊氏公が在庵圓有禪師を京都西賀茂の正伝寺より拝請して創建されました。足利義満公はじめ足利歴代将軍に尊崇され、五山十刹制度の諸山に列せられていました。方丈には尊氏公書の「福海興国禪寺」の扁額が掛かっています。(足利義満公も「大光山福海寺」の扁額を書かれています)京都の久我には末寺の願王寺がありました。明治の初め頃まで、堀と堤で囲まれた福海寺境内は枳形を形成し兵庫津(兵庫城)の柳原総門の防備の役割をしていました。開山の在庵圓有禪師は、京都西賀茂正伝寺の法位圓性禪師の法嗣であり、鎌倉建長寺二世、兀庵普寧禪師の四世の法孫に当たります。大変道徳が高く、学識深く、參禪する雲水、学者が大勢参集しました。そこから福海寺の法堂は「雲曾堂」と名づけられました。「大光山 福海寺」の寺号は建武3年足利尊氏公が兵庫の針ヶ崎観音堂に逃れ、兵庫の海から九州に落ち

その後また兵庫に上陸し、幕府を開いたことから、兵庫の海が、尊氏公にとって「福の海」で有るという意味、観音信仰の「福聚海無量」の意味、鎌倉和賀江「福光山聖海寺」の復興の意味あいも有ります。福海寺の建立に当たって、兀庵禪師ゆかりの名跡の復興を考えたものと思われまます。貞和5年11月21日遷化。世寿84歳。遺偈は「八十四年 笑倒祖佛 一句臨行 寒嵐弘私」とあります。また肖像画である頂相の賛は、天龍寺住持、埼玉平林開山の石室善玖禪師が書かれていました。法嗣は無價掌珍禪師(京都五山萬寿寺住持・筑前聖福寺第五十一世・福海寺第二世)がいます。



歌川芳虎画「太平記合戦図」



福山商工会議所 (福山市)

福山市は広島県の東端に位置し、南は瀬戸内海に面している人口47万人の都市です。足利氏にとって、最もゆかりの深いまちが福山市です。

後醍醐帝軍に敗れ、瀬戸内海を西に追われていた尊氏は途中、鞆の浦の小松寺にて、光厳院から「朝敵、新田義貞を滅ぼして天下に平隱をよみがえらせよ」との院宣を受けました。尊氏は元氣百倍し、錦旗を奉じて九州へと向かいました。尊氏が京都を進撃する作戦をたてたのも、この小松寺です。

また、時代は大きく下って、戦国時代の末期織田信長によって京都を追われた15代将軍義昭は、1577年(天正4年)鞆の浦を拠点として勢力の回復を図りました。

このように、足利政権の興亡の夢を秘めた福山市鞆の浦

は、何事もなかったように光り輝き人々に親しまれています。



足利政権興亡の夢を秘めた鞆の浦

